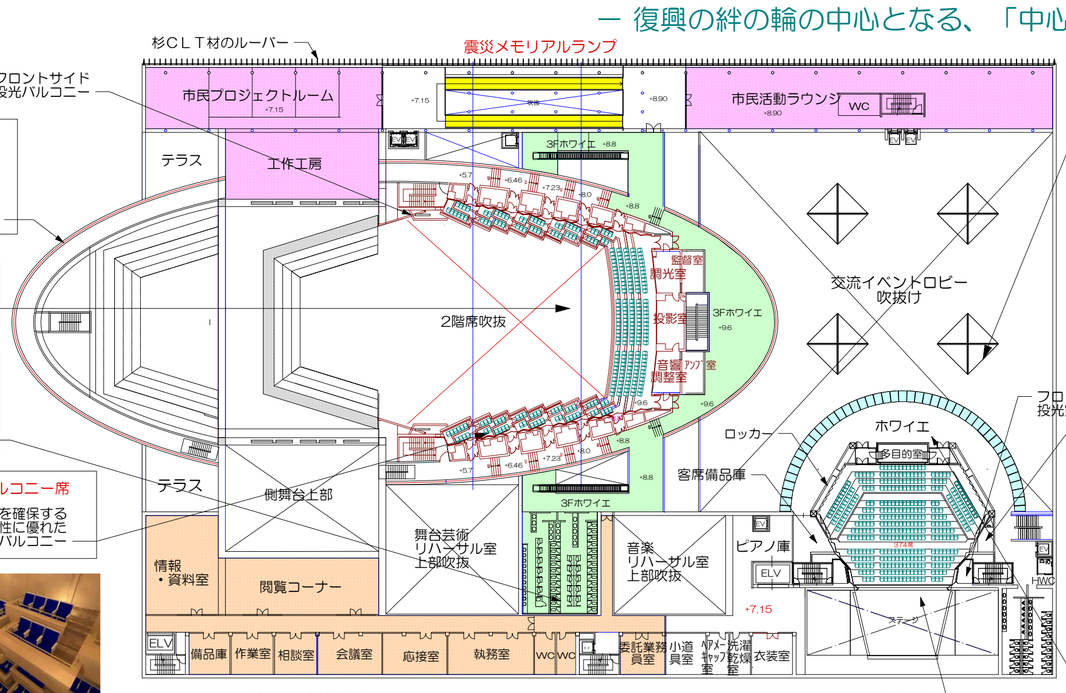
― 復興の絆の輪の中心となる、「中心部震災メモリアル拠点」と「音楽ホール」―

3F



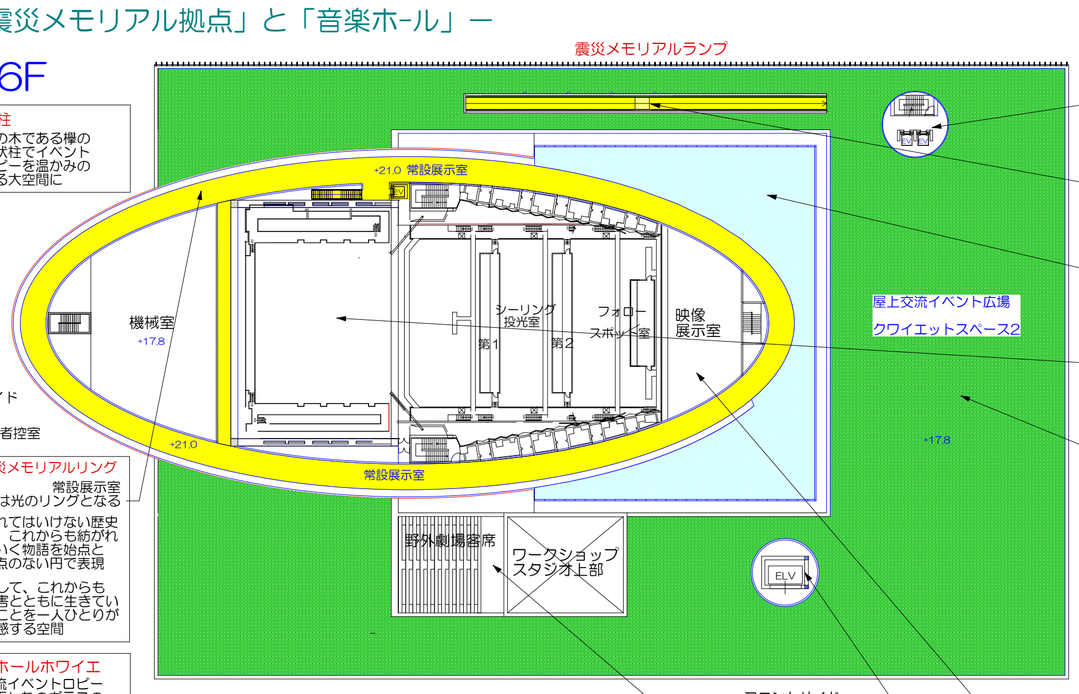
大ホール外壁
宮城県産の杉のCLTパネルを使用した音楽ホール外壁

大ホール
2階席
292席

大ホールトイレ
休憩時の女性トイレの混雑に配慮したレイアウト

大ホールバルコニー席
確実な視界を確保する視認性に優れたダブルバルコニー

6F



欅柱
市の木である欅の樹状柱でイベントロビーを温かみのある大空間に

震災メモリアルリング
常設展示室
夜は光のリングとなる
忘れてはいけない歴史と、これからも紡がれていく物語を始点と終点のない円で表現
そして、これからも災害とともに生きていくことを一人ひとりが実感する空間

小ホールホワイエ
交流イベントロビーに面したのガラスのシリンダー状のロビー

エレベーター・階段
1階交流ロビーから屋上をつなぐ

メモリアルランプ
1階屋外広場と屋上をつなぐ車椅子があがれる斜路

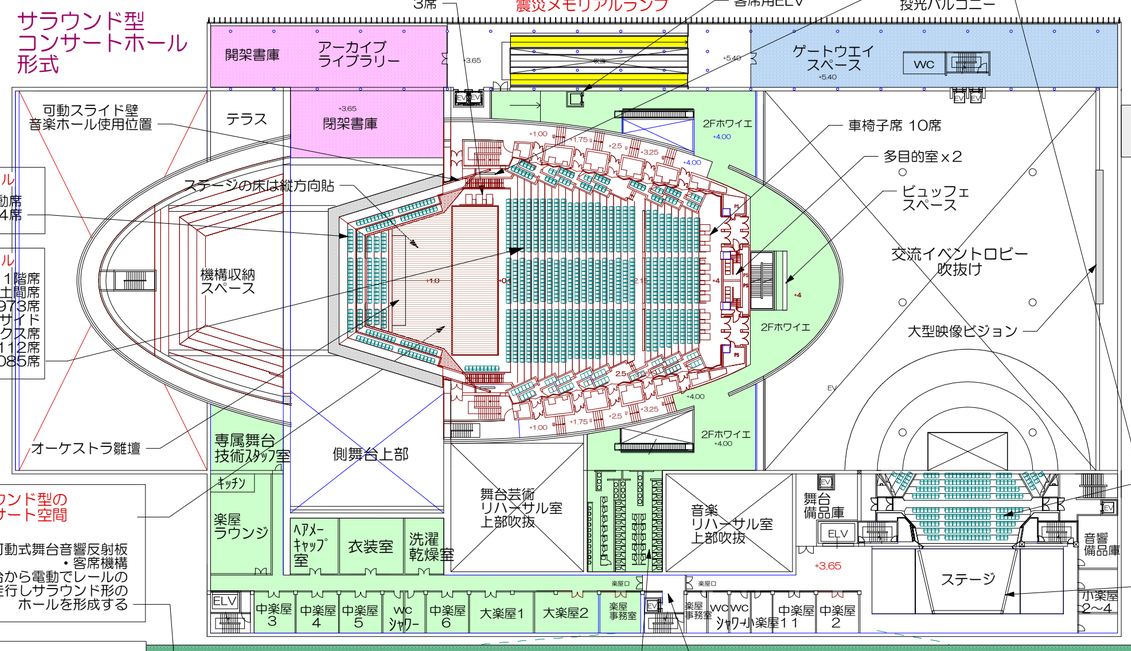
トップライト
交流イベントロビーへ柔らかい自然光を届ける

フライタワー
30の最大高さを確保（高さ制限内）

屋上広場
野外イベントに使われる屋上広場、交流イベントロビーから、エレベーターでアプローチ
メモリアルランプからのアプローチも可能

クワイエットスペース 2「開く」
イベントのない時は風の音、太陽の光、雲の動き、川のきらめき生き物の鳴き声、街のにぎわい等、あらゆる要素の中で自分が生きていることを感じる逆説的なクワイエットスペースとなる

2F サラウンド型コンサートホール形式



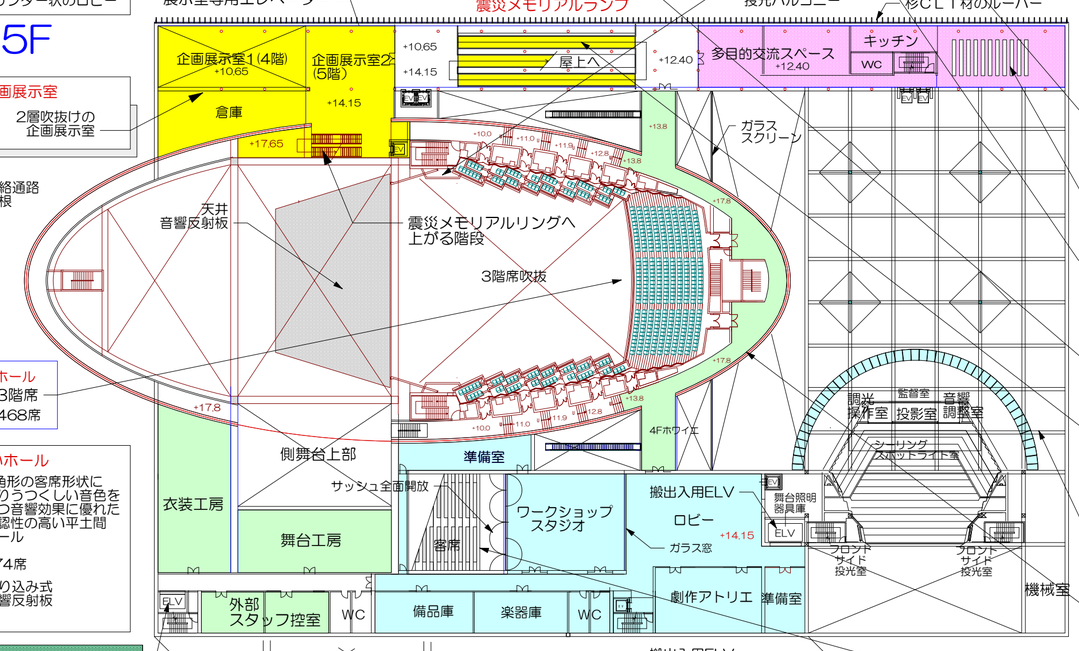
大ホール
移動席
184席

大ホール
1階席
平土間席
973席
サイドボックス席
112席
計1085席

サラウンド型のコンサート空間
可動式舞台音響反射板・客席機構
後舞台から電動でレールの上を走行しサラウンド形のホールを形成する

小ホール
6角形の客席形状によりうつくしい音色をもつ音響効果に優れた視認性の高い平土間ホール
374席
吊り込み式音響反射板

5F



企画展示室
2層吹抜けの企画展示室

連絡通路屋根

大ホール
3階席
468席

常設展示室
常設展示室内の映像展示室

多目的交流スペース
100人セミナー室

搬入用エレベーター
屋上交流イベント広場への搬入用エレベーター

ワークショップスタジオ
野外劇場となる階段状客席

震災メモリアルランプ
各階のスキップフロアを構成するランプ（斜路）

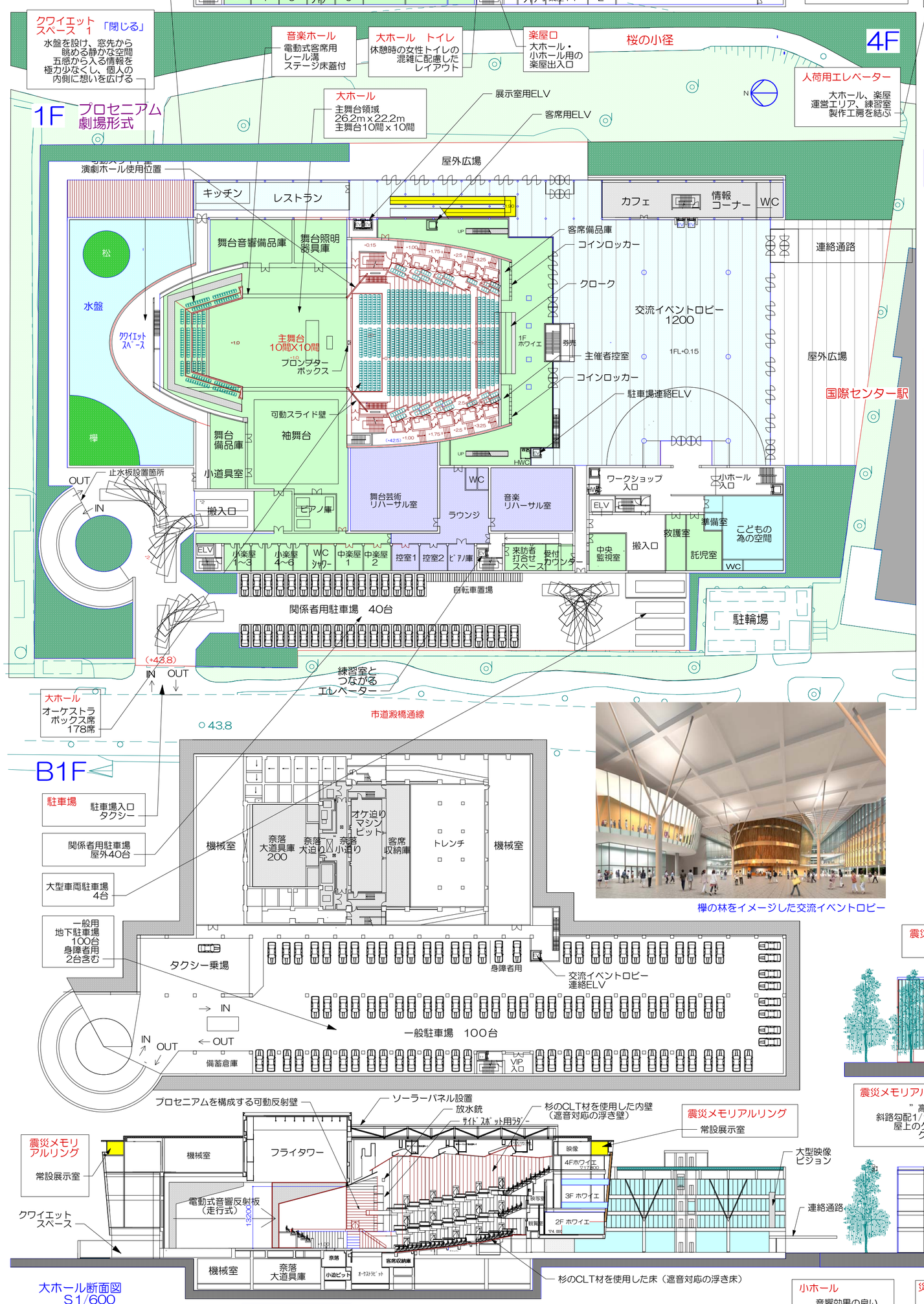
交流ロビーゾーン
大空間を組上げる鉄骨トラス

音楽ホール外壁
楕円のフォルムを地元産杉材のCLTパネルで構成

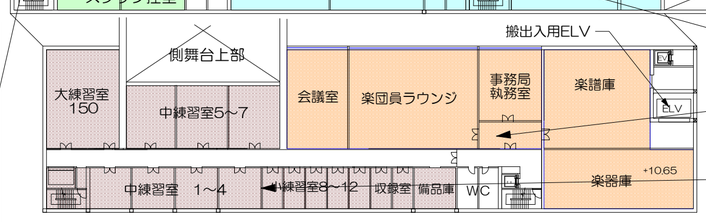
ワークショップスタジオ
スタジオに付随する野外劇場階段状客席

練習室
練習室ゾーン
リハーサル室の控え室ともなる

1F プロセニアム劇場形式



4F



仙台フィルハーモニー
管弦楽団事務局
専用スペース
楽団員　約100人
事務局員　約20人

楕円のフォルムで奏でる三つの輪音／仙台・杜の音楽ホール

市民の絆の輪

震災メモリアルリング

震災復興の最大の力となった、市民の助け合いの絆の輪を長く記憶に残すために施設の最上階に平穏な街を360度展望できる輪の展示室として象徴化

震災メモリアルランプ（斜路）

〝皆が逃げる、皆が助かる、高台に登れ〟

津波から身を守る唯一の標語を〝かたち〟とする為災害文化創造支援・発信エリアの中央に斜路を配置する

音楽と聴衆の輪

楕円のフォルムの音楽ホール

音の広がりをイメージし、優しく音を包み込むかたちの楕円を音楽ホールのフォルムとし音楽の輪を表現

サラウンド型のコンサート空間

舞台の周りを聴衆が取り囲み、一体感を感じられる聴衆の輪としてコンサート空間を楕円のフォルムで包み込む

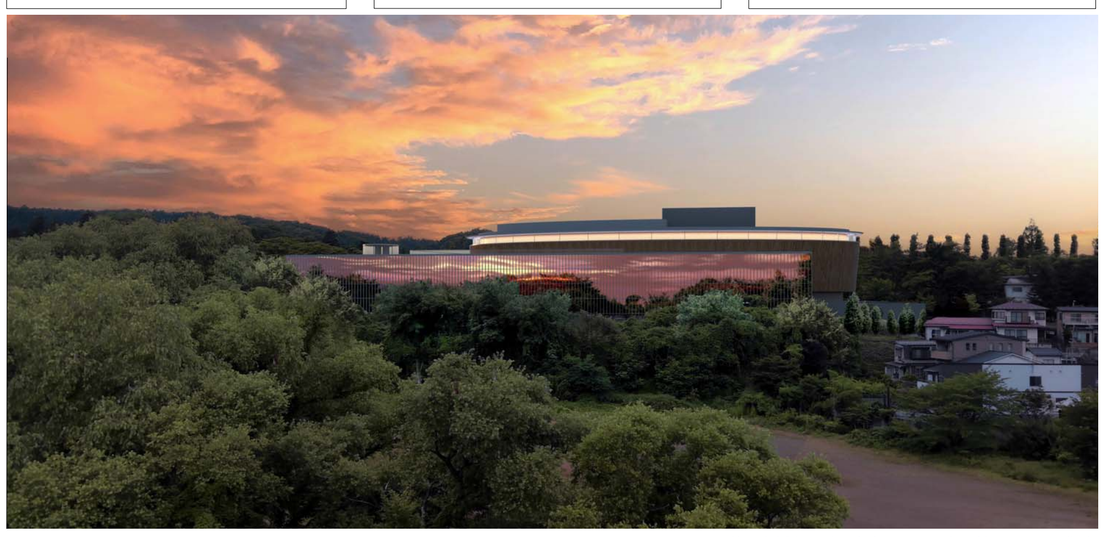
地域の輪

「都の杜・仙台・緑と彩にあふれる街」

5つの彩(文化、歴史、国際交流、街・景観、ものづくり)

伊達政宗由来の良質な杉を使用した「木造の音楽ホール」とし地域産業、ものづくりに寄与

地元の杉材を用いてデザインされた外壁は高さ約20mの敷地周辺の木々に溶け込み、地域のシンボルとなる



仲の瀬橋から見る音楽ホール・中心部メモリアル拠点

サラウンド型 音楽ホール

大ホール
地下鉄音遮音確保の為に、建物本体のSRCの躯体の中にホールを浮かす木造の浮き構造を採用、ホール内は柔らかい音質をつくる杉のCLT材のパネルで組上げた優しい木造のホールとする

電動式の一体型舞台音響反射板・客席機構を採用し、劇場から音楽ホールへの転換を行う

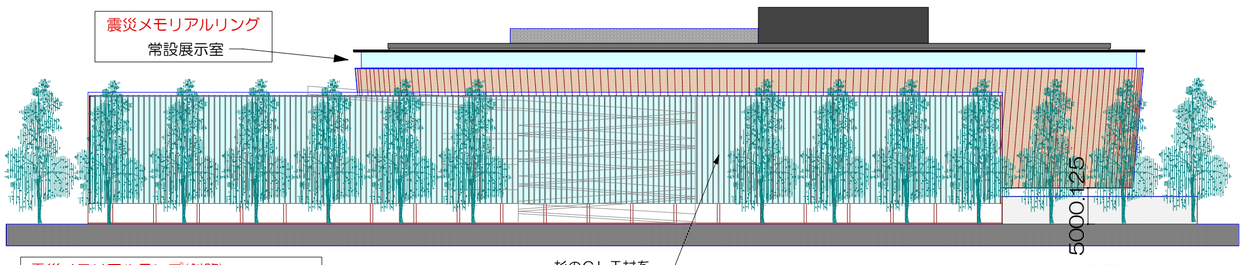
音響拡散効果と確実な視界を確保する視認性に優れたダブルバコニーを考案

プロセニアム形式の演劇型ホール

欅の林をイメージした交流イベントロビー

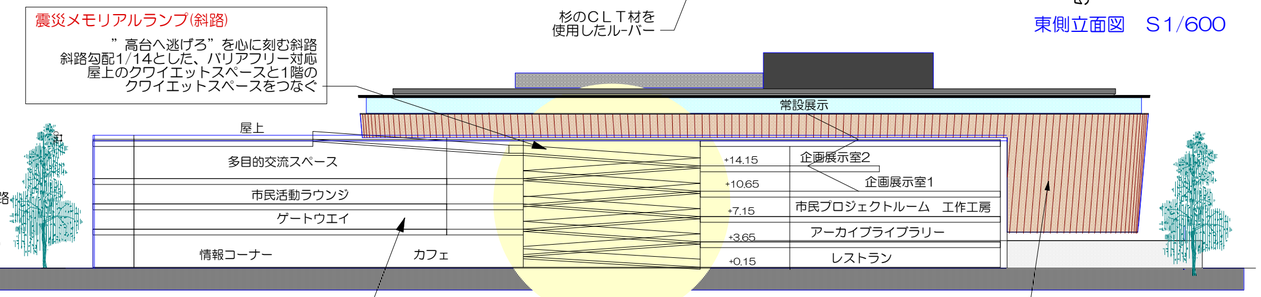
B1F

東側立面図 S1/600

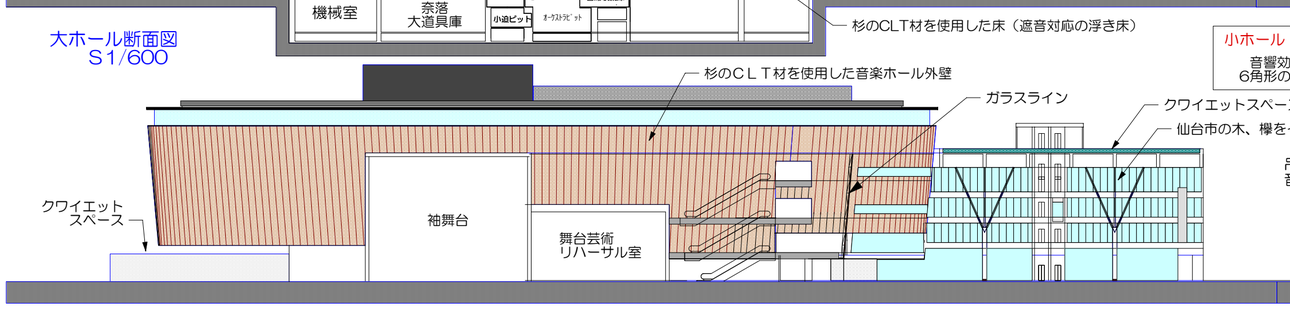


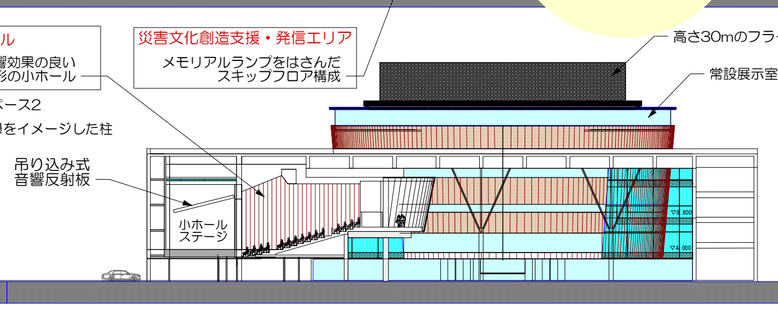
大ホール断面図 S1/600

災害文化創造支援・発信エリア 断面図 S1/600



交流イベントロビー 小ホール 断面図 S1/600





景観計画
低層部を周辺の高さ20mの樹林に溶け込む高さに押え、表層に杉の縦ルーバーを採用、中層部は杉のCLTパネルを使った楕円のフォルムとし、高層部を影のフォルムとすることで、周辺の景観に溶けこませる